

環境変化に対応するノリ品種の作出・普及事業

高崎有美子・岩出将英

目的

高水温や食害、色落ちなどの影響により、ノリ養殖の漁期は短くなっている。ノリの安定的な生産を確保するため、葉体の生長が早く短期間で収穫できる黒ノリ品種を作出・普及する。

方法

1 スサビノリ

水産研究所が保有するノリ保存株から養殖候補株を選定し、フリー糸状体をカキ殻へ移植後、室内採苗を行った。その後、水温 18°C で葉長 2~5cm まで培養し、生長がよかったものを 1 次選抜した。

2 アサクサノリ

三重県で養殖されたアサクサノリの板ノリについて DNA 分析を行い、アサクサノリの含有率の高かった漁場から高生長株を選抜した。DNA 分析は民間業者に委託し、柿沼ら（2015）に従い、リアルタイム PCR 法で行った。

3 養殖業者からの育種に係る要望聴取

三重県黒ノリ養殖研究会（事務局：県漁連）が利用する無料通話アプリ LINE のグループ上や対面により、養殖業者に対して育種に係るアンケートを実施した。アンケートはカキ殻糸状体に関する事、品種開発に対する要望、養殖試験への協力の有無等、8 項目で行った。

結果及び考察

1 スサビノリ

水産研究所が所有するノリ保存株のうち、三重県内で漁場選抜した 2 株（伊勢由来、鳥羽由来）を養殖候補株とした。1 次選抜は生長の良かった葉状体を選び、それぞれ自家受精によってフリー糸状体を作製することで全 8 株の候補株を得た。

2 アサクサノリ

三重県で養殖されたアサクサノリの板ノリ 8 検体の DNA 分析を行った。このうち、アサクサノリの含有率が高かった 2 漁場（含有率 92.8±0.9%、71.1±2.6%）から葉状体を採取し、水温 12°C で培養した後、高生長なもの 6 株について、自家受精によってフリー糸状体を作製した。

3 養殖業者からの育種に係る要望聴取

アンケートを 2022 年 10 月から 11 月にかけて実施し、生産者 23 名から回答を得た（全生産者数の 19%）。養殖業者はカキ殻糸状体を購入先の幹旋や過去の実績に基づいて 3 品種以上購入し、それらを混合して採苗している実態が明らかになった。また、高水温耐性、高生長性、色落ち耐性品種の開発を望んでおり、三重県水産研究所が行う試験についても協力体制が見込まれることがわかった。

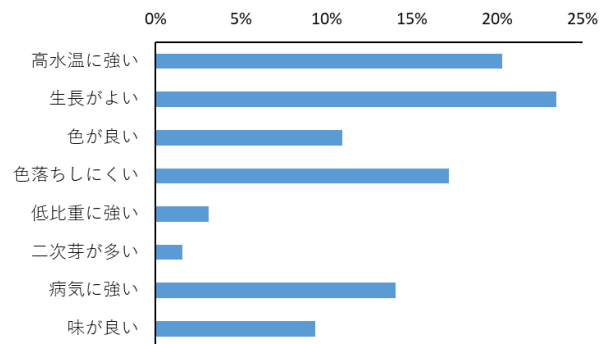


図 1. 育種に係るアンケート結果

参考文献

柿沼誠・平壮雄・岩出将英（2015）アサクサ板ノリの品質管理・評価技術の開発-PCR による板ノリ中のアサクサノリ含量の簡易定量-, 日本水産学会誌, 81 (5), 817-825